

社団法人私立大学情報教育協会
平成 25 年度第 2 回 基本調査委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 25 年 9 月 27 日 (金) 16 時 00 分から 18 時 00 分まで
II. 場所 : 私情協事務局
III. 出席者 : 高橋理事、真鍋委員長、尾崎委員、島貫委員、石井委員、今井委員、高木委員
井端事務局長、森下
IV. 資料
① 平成 25 年度私立大学教員の授業改善調査 調査票 (案)
② 私立大学等改革支援事業に関する資料
③ 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査の概容 (中央教育審議会)
④ 第 1 回 基本調査委員会 議事概要

V. 議事内容

1. 平成 25 年度私立大学教員の授業改善調査の調査票設計について

第 1 回委員会での検討を踏まえて作成した資料① 平成 25 年度私立大学教員の授業改善調査の調査票 (案) について検討を行った。

検討し、修正したのは以下の通り。(その後事務局にて見直し修正した部分を含む)

(1) 調査の目的、提出期限、回答者情報等について

- ① 調査の目的、趣旨
「取り組みと課題について」→「取り組みと課題などについて」に修正
② 回答期限 マークシートは平成 26 年 1 月 17 日 (金)、Web は 1 月 24 日 (金) とする。
③ 回答情報の取り扱い→回答していただいた情報の取り扱いにする。
④ 調査 1.~6.迄の対象科目について、以下の表現に修正
※ 例えば、受講学生の多い科目、先生が主要科目とお考えの科目についてお答え下さい。
※ 対象とする科目は、講義あるいは実験・実習・演習とし、ゼミを除きます。を加える
※ 本調査での学修とは、授業のための事前の準備、事後の展開などの自主的な学びを指します。
調査全体に関係するので 2. (1) の欄外でなく前段に記載する。
⑤ 科目の学系コードを裏面に変更 ← 裏面の学系コード表から選択してくださいとする。
⑥ 対象年次 (大学、短期大学) は入れない。
⑦ 授業形態 ① 講義 ② 実験 ③ 実習及び実技 ④ 演習 ⑤ その他 () 例えば...は入れない。

(2) 授業現場での問題意識

(2) -1 学生の学修に関する問題

資料①の (案) について検討し表現を以下のように修正し取りまとめた。

- ① 学修に必要な基礎学力が不足している
② 事前・事後学修に取り組む姿勢が弱い
③ 授業に積極的に参加し、自主的に学修する意欲が希薄である
④ 将来設計やキャリア形成を考えて学修に取り組んでいない

(2) -2 学生の学修に関する問題

資料①の (案) について検討し表現を以下のように修正し取りまとめた。

- ① 学生の事前・事後学修をきめ細かく指導する時間がとれない
② 基礎学力に格差があり、質を保證する授業運営ができない

- ③ 学修支援の組織的な取り組みが弱い、教員個人の対応には限界がある
- ④ 学士力の到達目標と授業科目の関連が明確になっていない
- ⑤ 教員同士が役割分担し、連携・協力する授業ができていない
- ⑥ 能動的な授業を実施するための授業運営や指導に自信がない

(3) 能動的な学修を実現するために教員が取り組むべき対策

資料①の(案)について検討し表現を以下のように修正し取りまとめた。

- ① 授業を受けることで学士力のどの部分の能力が獲得できるのか、学修の目標、事前・事後学修の進め方をシラバスで明確化する
- ② 教員間でシラバスの内容を点検し、授業科目の内容の調整や統合を検討する
- ③ 学生の主体性を促す課題探求型授業、学生参加型授業、双方向型授業、フィールドワーク・実習等による授業運営を積極化する
- ④ 学生の学修時間や学修行動を把握し、授業改善を図る
- ⑤ 教員連携によるチームティーチングの積極化を図る
- ⑥ 上級学年生・大学院生が学生目線で学修支援を行う仕組みの導入を図る
- ⑦ 幅広い学びを提供するために産業界、地域社会と連携した協働学修の取り組みを図る
- ⑧ 学修成果の評価基準を客観化し、質保証の可視化を図る

(4) 全学的な教学マネジメントの課題と対策

資料①の(案)について検討し表現を以下のように修正し取りまとめた。

- ① 学士力を実現するカリキュラム、教育プログラム等を分かり易く体系化・システム化・可視化の仕組み
- ② 教養と専門、細分化された授業科目の整理・統合等、授業科目の再編に向けたガバナンスのリーダーシップを強化
- ③ シラバスに事前・事後学修に必要な時間、学修内容の明記を徹底
- ④ 大学院生・上級学年生による学修の相談・助言を実現する制度の整備
- ⑤ 学修時間及び学修行動・成果を観察し、教育改善を点検・評価する専門組織の構築
- ⑥ 産業界、地域社会との連携・協力を図る取り組みを支援する専門組織の構築
- ⑦ 「教える授業」から「学ぶ授業」への意識変革を促す組織的な取り組みの強化
- ⑧ アクティブラーニングに向けたFD及びSD活動の充実
- ⑨ 学修ポートフォリオ、外部公表・評価等による学修成果の可視化

以下の用語説明を欄外に入れることにした。

* 教学マネジメント：教育目標を達成するために教育課程を編成し、その実現のための教育指導の実践・結果・評価の有機的な展開に向け、組織を整備・運営すること

* SD(スタッフ・ディベロプメント)：大学職員の職能開発の取り組み

(5) 教員の教育力向上の課題

資料①の(案)について検討し表現を以下のように修正しとりまとめた。

- ① 専門組織による教育内容・方法の改善支援の仕組みを構築
- ② 学位授与方針と授業内容、カリキュラムポリシーの整合性を定期的に確認・点検するFD
- ③ 学生が自ら問題を発見し、解を見いだしていく授業改善のFD
- ④ 学生参加型授業、対話型授業のマネジメント力を身に付けるFD
- ⑤ 事前・事後学修に積極的に取り組ませるための動機づけ、授業運営の工夫を研究するFD
- ⑥ 学修ポートフォリオを用いて学修達成度を観察し、授業の点検・改善を図るFD

(6) 授業改善に向けた情報通信技術 (ICT)の利用状況

主要科目を対象に授業改善に向けた情報通信技術 (ICT)の利用状況を(現在)と今後3年先の(計画)

について該当する欄の〔○〕を塗りつぶして下さい。 2年先→3年先に変更

利用目的、授業改善に向けた情報通信技術（ICT）の利用方法・内容の内容を検討して修正した。

- 1 Web上のシラバスに授業の事前準備等主体的な学修に必要な情報を掲載し、授業の進め方を明確化する
- 2 Web上に事前・事後学修のための課題、教材、小テスト等を掲載し、学修の実態を把握する
- 3 ネット上で教員や大学院生、上級学年生が指導する仕組みを構築し、学修を助言・支援する
- 4 世界の大学等から配信されている講義（MOOC等）を積極的に利用する
- 5 電子掲示板等を用いたグループ学修で授業時間外にも意見発表、相互評価を行う
- 6 授業が社会でどのような場面で活用されているのか、社会人からネットを通じて説明を受ける等、学修の動機づけを図る
- 7 授業中にクリッカー、スマートフォン、パソコン等を用いて理解度を把握しながら授業を運営する
- 8 大学間や教員間で連携してネット上で合同授業を行い、多面的な学修を行う
- 9 ネット上で地域社会・産業界と連携して問題発見・問題解決型の学修を行い、助言・評価を受ける
- 10 eポートフォリオに学修成果を記録させ、学修到達度を確認する
- 11 学修成果の発表をネット上で行い、意見交換・相互評価、講評を行う
- 12 学生の授業評価をネット上で行い、分析し、授業改善に結びつける
- 13 授業評価の結果を踏まえて改善を図り、その内容をWeb上でフィードバックする
- 14 大学教員、社会人とネット上で授業改善への取り組みについて意見交流を行う

（7）教育効果を高めるために情報通信技術（ICT）を利用する際の改善策

資料①の（案）について検討し表現を以下のように修正しとりまとめた。

- ① ICTをツールとして活用し、板書や対話を含む授業運営を工夫する
- ② 小テスト及び課題演習等を通じて対面及びネット上で理解度の確認を頻繁に行う
- ③ 卒業生や社会人から授業の重要性をネットや映像等で紹介する
- ④ ネット上での事前・事後修に加え、教室でグループによる問題演習（反転授業）を行う
- ⑤ ネット上で学修成果を発表し、他大学や社会から助言・評価をうける

（8）情報通信技術（ICT）を使用して顕著な効果をあげている事例

6. 授業改善に向けた情報通信技術（ICT）の利用状況と同様に将来を2年先→3年先に変更した。

2. 今後の予定

本日作成の案を事務局で再度見直し、調査票（案）として委員にメールで送る。
次回の委員会で最終（案）を取りまとめる。

3. 次回の委員会

平成25年10月25日（金）16:00から18:00まで

場所：私情協事務局